

難聴者の補聴器購入に係る負担軽減を求める請願

討論要旨 　いとう伸一議員

実は私の父親もそうでした。音が聞こえない生活はとてつらいです。難聴になると、まずテレビのボリュームが大きくなり、一緒にいる人も大音量に我慢しなきゃいけなくなります。外に出ると、家族は車の音が聞こえないんじゃないかと心配になります。補聴器がないと、人との話ができなくなり、孤独になりがちです。家族や知人とのコミュニケーションの問題がいろいろと出てきます。声が聞こえないと会話から取り残されるなど、そうすると、家族みんなでフォローするんですね。本人はもちろん、周りの人も巻き込んだ状況になります。これが難聴の大きな特徴です。

難聴と認知症の関係がございますが、私の認識では、認知症との関係あると思っていますけれども、実は、認知症と関係なく、難聴だけで十分だと思います、これを補助するにはですね。

私の父親は、補聴器のおかげで認知症にならず、晩年を穏やかに暮らすことができました。もちろん調整にも行っています。私、何回も行きました。調整は面倒くさくないです。聞けない人、聞きたい人は必ず調整したくなります。ですから、面倒なことは全くありません。

補聴器が必要な難聴者と家族にとって、補聴器なしで健康を全うするのは本当に難しいです。補聴器は高額ですが、一人でも多く希望する方の手元に届けたいと切に思っております。

独自に補助している自治体もあります。しかし、尾張旭市は、ほかの自治体ではなく、健康都市であります。予算の限りはありますが、ぜひ他の自治体に先駆けて早く、身近な問題として、少しでも難聴者への補助をすることに賛同いたします。